

報告

第3回国際リハビリテーション医学工学会議（中国 上海）

横浜市総合リハビリテーションセンター
地域リハビリテーション部 研究開発課 上野 忠浩

1. はじめに

2014年5月24日から26日の日程で、中国上海博覧会場跡地にある展覧館会場にて、第3回国際リハビリテーション医学工学会議が開催された。筆者は当センター顧問の田中理氏と共に参加したので、会議の様子を報告する。

2. 第3回国際リハビリテーション医学工学会議

本会議のテーマは「リハビリテーション研究成果を医療技術に転換すること」である。中国では、急速な高齢者や障害者の増加によりリハビリテーションに対する需要は増え続けている。その需要に対応するため、リハ専門家を集め、産官学の情報交換を推進することで、全体の支援水準向上に寄与していこうという趣旨で開催されていた。



図1 発表中の田中理氏



図2 筆者



図3 会場の外観

3. 会場の様子

会場は、上海万博の際、「生命陽光館」と呼ばれたホールの地下に50人定員程の会議室が幾つかあり、その中の3室を利用して開催された。

4. 発表演題

「高齢者の健康管理とリハビリテーションのための支援技術の応用」というセッションにて、「横浜市総合リハビリテーションセンターのリハビリテーション工学臨床サービス」と題し、この事業の4つの柱である①補装具クリニック、②臨床工学サービス、③住環境整備事業、④福祉機器臨床評価・共同開発などについて成果例を示しながら詳しく説明した。筆者は②臨床工学サービスの事例として、プロの画家である筋ジストロフィー症者が絵を描き続けられるよう、電動上肢装具、電動イーゼルと電動リクライニング車椅子を導入し、その操作を音声によって行うことができるように工夫した事例を報告した。会場からは、「各機器の動く“速度”について音声で調整できるのか」という質問があり、速度調整の仕組みは設けておらず、音声にて停止は可能であるけれど、ご本人の操作しやすさと誤作動に対する安全を確保するため、左指でスイッチ（緊急停止用）を押して止めながら利用されている旨をお答えした。

5. おわりに

発表の中で、身体のサイズに合わない自操型車椅子に乗った高齢者や介助型車椅子で介助者に押されている脊損者などの写真を示して、車椅子と身体の不適合の例を説明されていた。その内容を考えると、支援機器の適合技術の必要性や重要性に関する中国専門家の気付きはあるものの、知識・技術の普及・確立は今後の大きな課題と感じた。

横浜市総合リハビリテーションセンター
地域リハビリテーション部 研究開発課
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1770